

リハビリテーション科 (部)

研修の概要・特徴

概要

リハビリテーション科は当院でリハビリテーション（以下リハ）医学を実践し、リハ医療を提供する中央診療部門である。研修はリハ科、整形外科にて行う。

特徴

熊本大学病院リハ科（部）は、ICU、HCU、CCU、NICU、SCU、GCU を含む全診療科からの依頼を受け、入院早期から各診療科と密に連携し、エビデンスに基づいたリハ医療を提供している。現在 4 つの疾患別リハ料（心大血管リハ、脳血管疾患等リハ、運動器リハ、呼吸器リハ）すべてにおいて施設基準 I を取得しており、包括的リハとしてのがんのリハの施設基準も有しているため、多岐にわたるリハ症例の経験が可能である。当部はリハ科専門医ならびにリハ医学会認定臨床医資格取得のための卒後教育研修施設に認定されている。初期研修プログラム期間では将来の専門医資格の取得に有益な研修内容を提供する。

研修の目標

【 一般目標 】

患者を全人的に診療するために必要な、リハ医学の理念と知識・技術を修得する。

【 行動目標 】

1. 人体各器官の構造と機能を理解する
2. リハ医学に関連する病態および疾病の診断・治療と臨床検査
3. 機能・形態障害の評価ができる
4. 活動とその制限に関わる要因の評価ができる
5. 社会参加とその制約に関わる要因の評価ができる
6. 理学療法、作業療法、言語聴覚療法等の各種リハ治療を理解し処方できる
7. 補装具（義肢、装具、車いす等）の処方と適合判定および関連する福祉機器の理解ができる
8. 包括的リハプランの作成ができる
9. 医療、福祉に関わる各種専門職とのチームワークを築くことができる
10. リハ医療に関わる制度と社会資源を理解できる
11. 患者および患者家族との良好なコミュニケーションを計れる。
12. 診療記録、リハ処方箋、リハ総合実施計画書、装具処方箋などの文書を遅滞なく記載できる。

研修の方略

整形外科初期研修の一環として、もしくはリハ科（部）単独での 1~3 ヶ月間の研修が可能である。研修期間中には、症例を担当し、機能・能力障害を診断・評価、ゴール決定、リハ専門多職種機能を理解した上で、適切な処方と指示が可能となることを目指す。障害評価においては、3次元動作解析装置、筋電図・神経伝導速度などの電気生理学的検査、呼気ガス分析、肺機能検査を見学・経験でき、治療としては、運動療法や装具療法、各種物理療法、機能的電気刺激、ボツリヌス療法等の実際を体験する。

研修期間中のスケジュール

専門医取得には別紙 1 に示す臨床領域 1~8 を経験する必要がある。これらの領域のリハビリテーションを卒後早期に経験することはリハ科専門医を目指すことにおいてはもとより、臨床医としても大きな利点となる。研修期間は、実際に外来診察医として症例を診察後、担当医としてリハ処方を行う。リハ関連専門多職種によるプログラムの見直しのための評価・再評価会議に、症例担当医として参加し、意見を述べる。更に当院整形外科の回診、症例カンファレンス、勉強会へも参加する。これらの診察・処方、評価会議、勉強会、手技、検査、治療への参加を通じて、研修目標の総合的な習得を目指す。

別表1

領域1	脳血管障害、その他の脳疾患(脳外傷含む)
領域2	脊髄損傷、その他の脊髄疾患(二分脊椎など)
領域3	骨関節疾患(関節リウマチ・外傷を含む)
領域4	脳性麻痺、その他の小児疾患
領域5	神経・筋疾患
領域6	切断
領域7	呼吸器・循環器疾患
領域8	その他(悪性腫瘍、熱傷など)

リハビリテーション地域活動

リハ科(部)は、熊本リハビリテーション研究会の事務局として年3回本研究会を主催しており、県内外のリハ医療、福祉関連職種からの研究発表ならびに特別講演が行われている。そのほか以下のような県内の学会、研究会等へ参加している。

熊本整形外科学会、熊本脳血管障害研究会、熊本脳血管疾患の障害を考える会、熊本神経心理研究会 等

熊本県地域リハ推進協議会の役員として、行政(国、県、熊本市)と連携し、地域リハ推進事業や広域リハ支援センター連絡協議会の運営を担っている。

研修の評価

研修医は、研修修了後にEPOCによる尺度評価を受け、これをその後の指標とする。

研修実施責任者

リハビリテーション科(部) 部長：宮本 健史

研修指導責任者(指導医)

リハビリテーション科(部) 副部長：(正) 砥上 若菜